

地方空港の国際化による潜在意識の変化に関する研究

A study on the change of the subconsciousness by internationalization of a local airport

鈴木 歩** 浜岡 秀勝*** 清水 浩志郎****

By Ayumu SUZUKI** Hidekatsu HAMAOKA*** Koshirou SHIMIZU****

1. はじめに

現在、全国の地方空港ではアジアを中心に国際定期航路が結ばれている。その中で出国率の低い秋田県でも2001年10月に国際定期航路、秋田 仁川便が就航した。それにより、秋田空港と韓国の仁川空港が約二時間半で結ばれ、海外旅行へ気軽に行けるようになった。しかし、秋田県民の出国率は依然低い状況であり、国際線就航による「海外に行きやすくなった」というメリットが生かしきれていない。その原因として、海外旅行を知らないことで自ら心の中に「海外へ行きたくない」という壁を作ることや、海外旅行に対する移動費用・時間・距離や町の魅力などの情報が欠如していることから、行動に踏み切れないでいると考えられる。そこで、このような情報を与えることで、行動に変化が現れると思われる。

本研究では、上述のような出国率や搭乗率の低迷といった原因がソウルに対する情報の認識不足であると仮定し、ソウルまでの正確な情報を提示した。それにより、出国率の低い秋田県民の秋田空港国際化によるソウル利用者や地域住民の移動時間・移動費用に対する潜在意識の変化を把握し、それに伴い変化する行動意識を把握する。

また、既往研究であまり調査されていない潜在意識について、費用差と時間差を用いて定量的に把握することにより、行動変化に与える要因を考察することを目的とする。

2. 本研究での潜在意識の定義

出国率の低い秋田県民に「海外に行ってみたくて遠いと思うので行かない」という潜在意識があり、その潜在意識が変化することで、行動も変化が起こる。そして、このような潜在意識と行動変化の関係に着目し、こういった潜在意識の変化を把握することで出国率の低迷の原因を明らかにし、海外旅行に関する需要分析に重要であると考えられる。

また、一般的な潜在意識の定義とは「自覚されること無く、行動や考え方に影響を与える意識、心の奥底にひそんだ意識」(大辞林第2版より)とされているが、本研究では「帰国者と地域住民が秋田から予想する、目的地までの移動時間と移動費用」と考えている。

3. 調査概要

本研究では、出国時に回収したサンプルを出国者、帰国後に回収したサンプルを帰国者とし、海外旅行前後で変化する意識を比較するためアンケート調査を行った。その際、両アンケートに郵便番号と生年月日の回答欄を作り、両者を照合させようとしたが、実際には35人分の照合サンプルの回収と少なかつたために、出国者と帰国者を分けて分類した。また旅行経験や出国方法などが居住地域により異なると考えられるので、秋田市内・湯沢地区・横手地区・能代地区・大館地区・角館地区・田沢湖地区の7地区において調査を行った。アンケート調査概要を表-1に示す。また以後、調査時に海外へ行き出国時に回収した対象を出国者、帰国時に回収した対象を帰国者、県内7地区から得られた対象をポストと表記する。

キーワード* : 地方空港 国際化 潜在意識

**学生員, 秋田大学大学院土木環境工学専攻
(秋田県秋田市手形学園町)

TEL018-889-2974, FAX018-889-2975)

***正員, 工博, 秋田大学工学資源学部土木環境工学科

****フェロー, 秋田大学工学資源学部土木環境工学科

表 - 1 調査概要

調査日	平成 14 年 12 月		
対象者	出国者	帰国者	県内 7 地区の住民
質問内容	性別・年齢・旅行経験・目的地までの予想移動時間・費用等		
調査方法	空港にて ヒアリング	空港配布 郵送回収	ポスト投函配布、 郵送回収
配布枚数	241 枚	272 枚	1000 枚
回収枚数	241 枚	79 枚	171 枚
回収率	100%	29%	17.1%

4. 帰国者、ポストの旅行経験と意識の把握

ここでは、「ポスト・海外旅行未経験」を県内 7 地区で一度も海外に行ったことの無い対象、「ポスト・ソウル経験者」を県内 7 地区でソウル旅行経験のある対象、「帰国者・初海外」を帰国者で今回初めて海外に行ったと対象、「帰国者・ソウル経験あり」を帰国者でソウル旅行経験のある対象をとした。これは旅行経験の違いによる潜在意識の変化と行動変化に大きな差があると思分した。また、この対象の概要を表 - 2 に示す。

表 - 2 対象の位置付け

対象	属性	ソウル旅行経験
ポスト・海外未経験	ポスト	なし
ポスト・ソウル経験	ポスト	あり
帰国者・初海外	帰国者	なし
帰国者・ソウル経験	帰国者	あり

図 - 1 は「ポスト・海外旅行未経験者」と「ポストと帰国者のソウル経験者」と「帰国者・初海外」を対象とし、海外・県内・県外の年間旅行回数を示したものである。

ここで、出国率の低い秋田において海外に行く人は、海外だけでなく全体的な旅行回数も多いと考えられる。しかし、結果は「帰国者・ソウル経験者」、「ポスト・ソウル経験者」と「ポスト・海外未経験者」の年間旅行回数を見ると、平均 4~5 回と同等である。また、ソウル旅行経験者の旅行回数は、県外旅行に比べ県内旅行のほうが多く、海外旅行未経験者は県外旅行に比べ県内旅行のほうが多い。これは、海外旅行経験者は年間の国内外の旅行の回数が多く、海外旅行未経験者は、海外には行かないが遠くには行きたいという考えがあるので身近な県内旅行より遠い県外旅行を選ぶ傾向がある。また、海外

旅行経験の有無に関わらず年間旅行回数が多い対象があることから、国内旅行と海外旅行を選ぶ際旅行回数はあまり影響しないと考えられる。

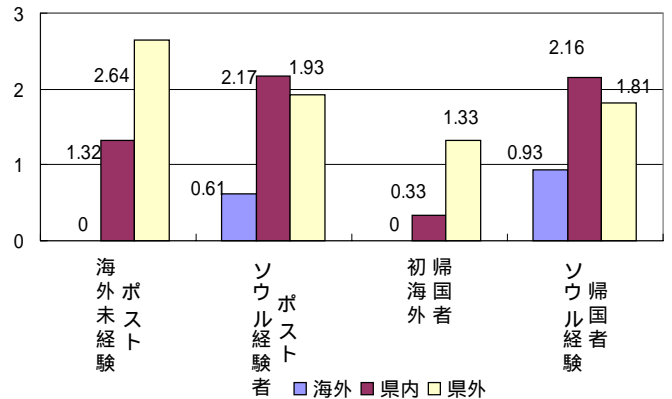


図 - 1 年間旅行回数

図 - 2 は、対象を「ポスト・海外未経験者」、「帰国者・初海外」、「帰国者・ソウル経験者」として、ソウルの魅力を 5 段階評価した結果である。そこで、各対象の「魅力的である」を見ると、「ポスト・海外未経験者」、「帰国者・初海外」はソウルについてあまり魅力を感じていないことがわかる。しかし、「帰国者・ソウル経験者」は、ソウル旅行を経験したことがあるので、「ソウルの魅力」はかなり高くなっている。また、旅行の回数を重ねるごとに魅力が増加する傾向にあると考えられるので、海外に行ったことのない人に対し、ソウルの魅力を増加させることで、海外へと行動を変化させることができると考えられる。

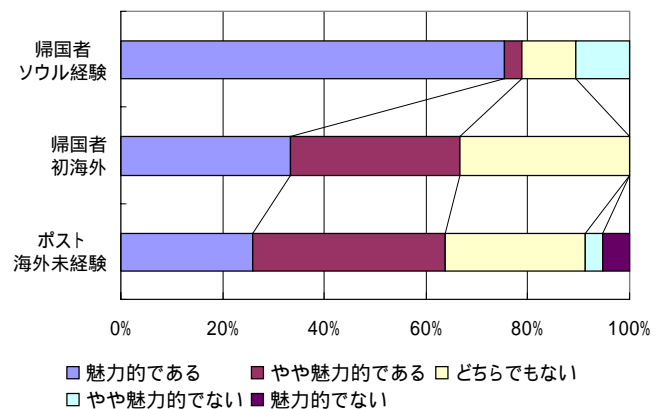


図 - 2 ソウルの魅力について

次に、ソウルへ行ったことの無い「ポスト・海外未経験者」は「ソウルを遠く感じているために行かない」という意識を持つと考えられる。そこで、移

動距離の把握が正確に行われているか確認するため、対象を図 - 2 と同様のものを使用し、秋田からソウル・高知・長崎・鹿児島までの移動距離について比較し、その結果を図 - 3 に示した。ここで長崎・高知・鹿児島とは秋田からソウルまでの距離と比較し、距離が短い（高知） 同等（長崎） 長い（鹿児島） 都市である。

しかし、結果は実際ソウルが二番目に近いのにも関わらず、ほとんどの対象者が正しく把握していないことがわかった。また、全ての対象が「一番近い」か「一番遠い」の両極端を考えている。そのような結果になった理由として考えられるのは、ソウル便就航時の「秋田からソウルまで近くなった」という情報により近いと感じたのか、そのような情報とは関係なく、「海外は遠い」と感じている人が多いからと考えられる。また、海外に行かない理由を、移動距離を正確に把握することができていないと考えたが、実際は海外旅行未経験者の「ポスト・海外未経験者」もソウルを一番近いと考えていることから、移動距離の把握は行動変化にあまり影響を与えないと考えられる。

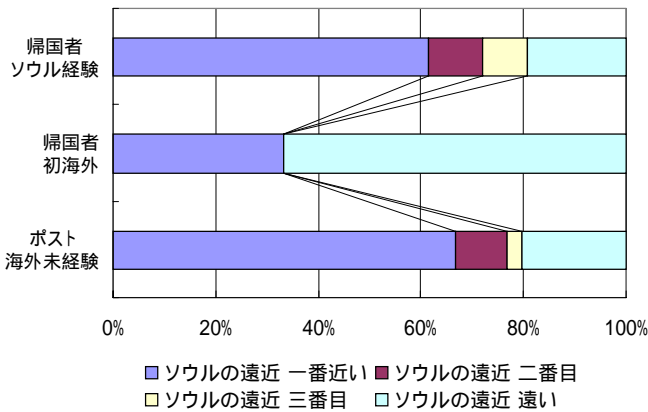


図 - 3 秋田からソウルまでの遠近

これらの分析から、一度も海外に行ったことの無い「ポスト・海外旅行未経験」、今回初めて海外に行った「帰国者・初海外」とソウル旅行経験のある「帰国者・ソウル経験あり」の各対象の特徴を把握し、潜在意識に違いがあることが明らかになった。特に「ポスト・海外旅行未経験」はソウルへの魅力が低いのは当然であるが、年間旅行経験が多く、ソウルのことを近いと考えているにもかかわらず、海外旅行経験がない。このことから、旅行回数と移動距離

は海外旅行を選ぶのに影響を及ぼすことが少ないと考えられる。

5. 移動時間・費用差と行動変化の関係について

ここでは、正確な情報提示による各対象の時間と費用に関する潜在意識の変化と、それに伴う行動変化の関係を表した。

まず、ソウルへの正確な情報（移動費用・時間・距離）の提示による、予想移動費用・時間と行動変化について考えた。そこで正確な情報提示に伴う行動変化は表 - 3 のように、ソウルまでの予想と実際の費用差と時間差が、実際の方が予想より大きくなると国内から海外へ行動が変化し、また実際の方が予想より大きくなるときは海外から国内へ行動が変化、そして予想と実際が同等の場合は行動変化が起こりにくい関係にあると考えられる。

表 - 3 潜在意識と行動変化の関係

	移動費用・時間の 予想と実際の差	行動変化	
		提示前	提示後
行動変化あり	予想 > 実際	国内	海外
	予想 < 実際	海外	国内
行動変化なし	予想 = 実際	国内	国内
	予想 = 実際	海外	海外

そこで、予想と実際の間大きなずれがあると、潜在意識が変化し、「高く、遠いと思っていたものが安く、近い」とわかることから、行動も変化しやすいと考えられる。

図 - 4 は「ポスト・海外旅行未経験」、「帰国者・初海外」、「帰国者・ソウル経験あり」において、移動費用差と行動変化について比較した結果である。

これは上述したように、国内から海外へと行動が変化する場合は実際より予想が大きく、海外から国内へと変化する場合は予想より実際が大きく、行動変化が無いときは予想と実際がほぼ等しい。これらから、移動費用に関する潜在意識と行動変化の間には密接な関係があると考えられる。

しかし、海外旅行経験者である「帰国者・経験あり」の国内から海外へと行動が変化する時の費用差が、非常に大きい。これはアンケートの質問で、移動費用を回答する際に、対象のほとんどがツアー客

であったため、純粋な移動費用のみの費用がわからず、ツアー料金そのまま回答したためと思われる。

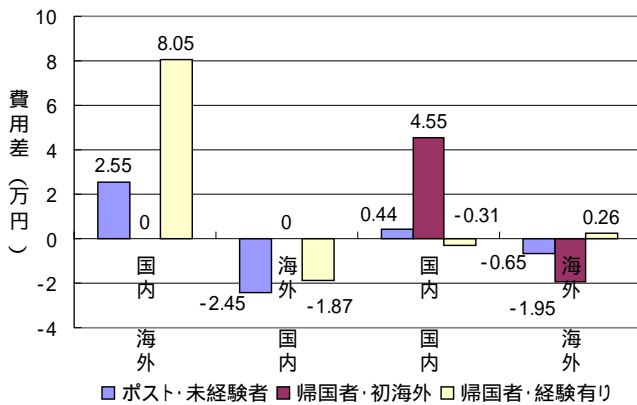


図 - 4 費用差と行動変化の関係

図 - 5 は、「ポスト・海外旅行未経験」、「帰国者・初海外」、「帰国者・ソウル経験あり」において、移動時間差と行動変化について比較した結果である。ここでは、移動時間について全体的に実際よりも短いと感じている人が多いが、その大きさが海外から国内へ行動変化した対象より、国内から海外へ行動変化した対象の方が時間差は小さい。これらから、情報提示により潜在意識が短くなると行動が変化することがわかった。これより、移動時間に関する潜在意識と行動変化の間には密接な関係があることがわかった。

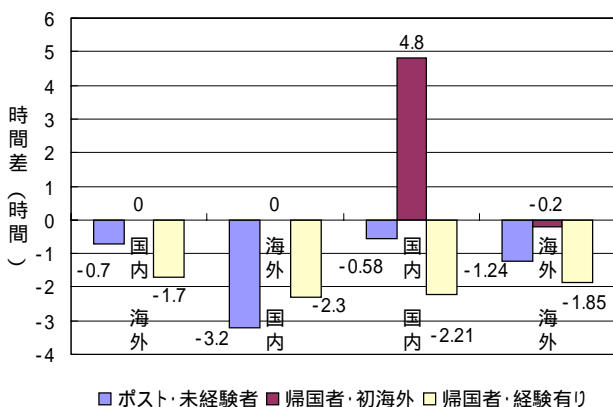


図 - 5 時間差と行動変化について

また、全体的に短く感じている理由として考えられるのは、対象がソウル便就航時の宣伝により、秋田 - ソウル間が約 3 時間で行けるといいう情報を聞いていたからであると考えられる。

図 - 6 は「ポスト・海外旅行未経験」、「帰国者・

初海外」、「帰国者・ソウル経験あり」のソウルまでの移動時間の割合を示したものである。この図から、実際のアンケートでは秋田駅からソウル駅までの移動時間を質問しているのに対し、その際に秋田 - ソ

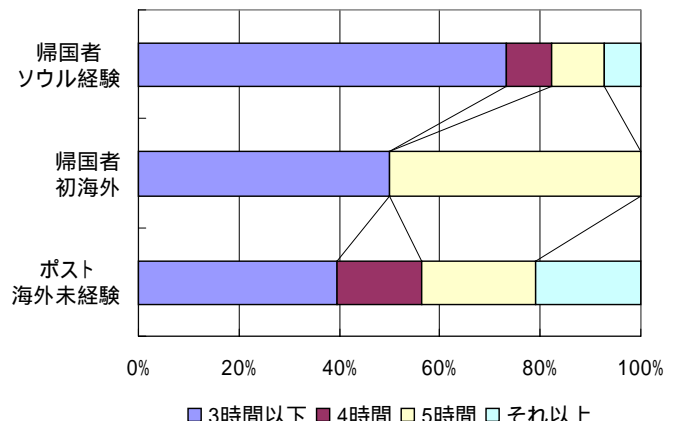


図 - 6 ソウルまでの予想移動時間の割合

6 . まとめ

本研究では、出国率の低い秋田県民の潜在意識に着目し、潜在意識が変化によって行動変化が起こると考え、費用差・時間差と行動変化の関係を比較した。その結果、正確な情報提示により、各対象の潜在意識が変化し、年間の旅行回数の多い「帰国者・経験あり」と「ポスト・未経験者」の行動が変化した。また、潜在意識を費用差と時間差を用いて定量的に表すことにより、費用と時間に対する潜在意識の変化の大きい対象が「ソウルに行く」という行動変化を起こしやすいことも確認できた。

以上より、海外旅行を選ぶ際は町の魅力が行動に変化を与える要因であることが明らかにできた。

また、費用と時間と距離のみの情報を提示したが、旅行という行動を起こすには他の要因もあると考えられる。そこで、行動に変化を与えるには、どのような情報を提示することが最も効率的か検討することを今後の課題とする。

参考文献

- 1) 森地 茂、轟 朝幸：海外観光旅行需要の国内地域格差構造と将来動向、運輸政策研究, pp.008~018 Vol.4 No.1 2001 Spring
- 2) 直原 史郎、屋井 鉄雄、兵藤 哲郎、森地 茂：地方空港の国際化の進展に伴う航空旅客の動態分析、土木学会第 48 回年次学術講演会 pp.548~549 平成 15 年